

●平成 27 年（2015 年）の日本の地震活動

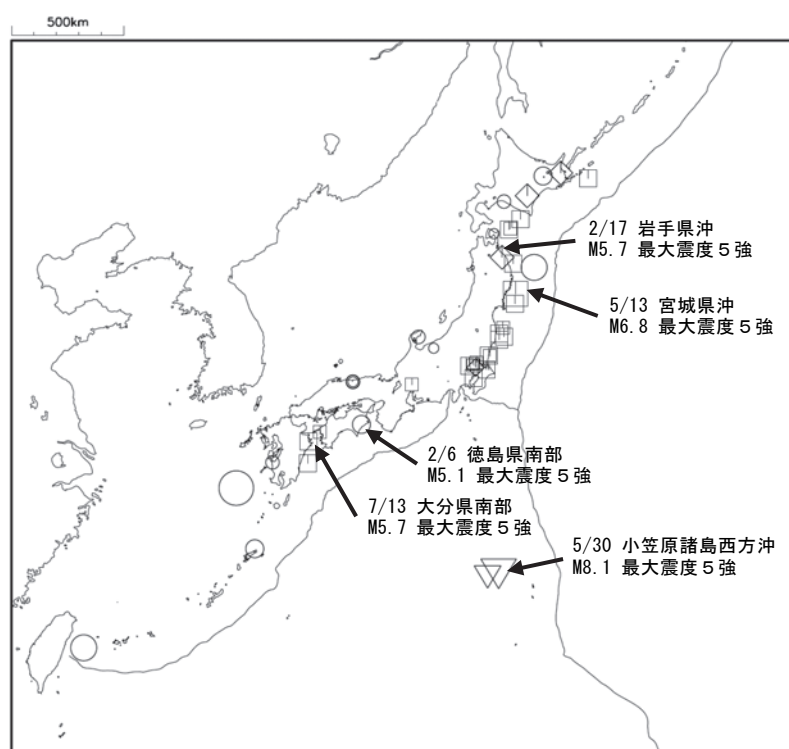


図 1 平成 27 年（2015 年）に最大震度 4 以上を
観測した地震の震央分布図
最大震度 5 強以上を観測した地震に矢印をつけた

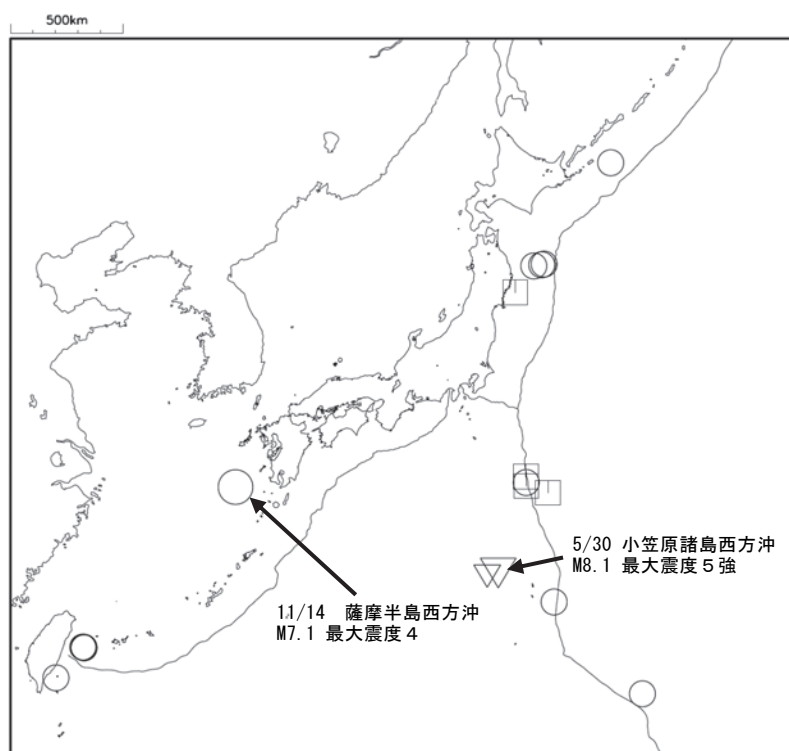


図 2 平成 27 年（2015 年）に発生した
M6.0 以上の地震の震央分布図
M7.0 以上の地震に矢印をつけた

〔概況〕

2015 年に国内で被害を伴った地震は 6 回（2014 年は 7 回）発生した。

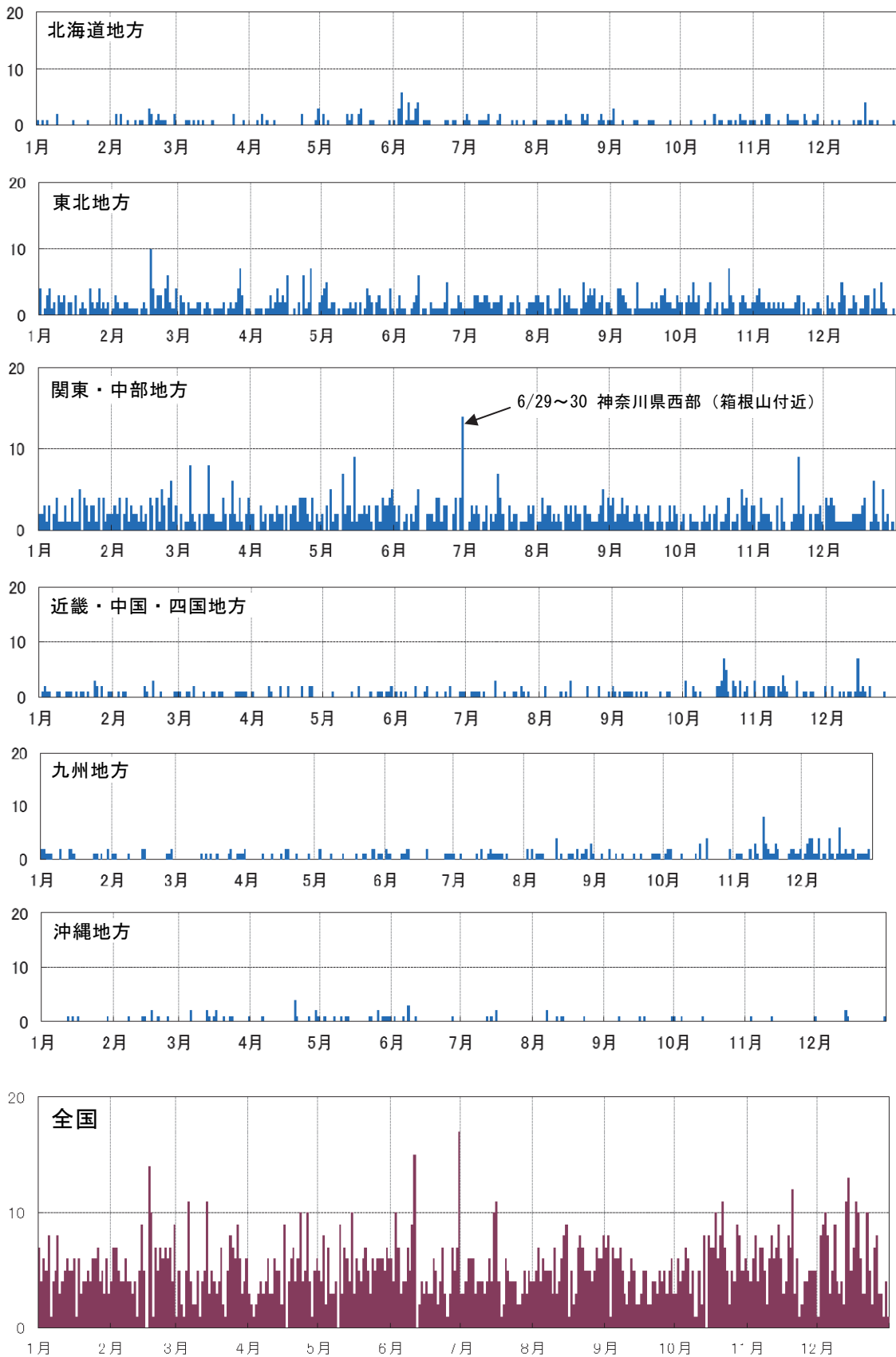
死者・行方不明者を伴った地震はなかった（2014 年もなかった）。

震度 1 以上を観測した地震は 1,842 回（2014 年は 2,052 回）、最大震度 4 以上を観測した地震は 44 回（2014 年は 55 回）、最大震度 5 弱以上を観測した地震は 10 回（2014 年は 9 回）であり、2015 年中に観測した最大の震度は、2 月 6 日に徳島県南部で発生した地震（M5.1）、2 月 17 日に岩手県沖で発生した地震（M5.7）、5 月 13 日に宮城県沖で発生した地震（M6.8）、5 月 30 日に小笠原諸島西方沖で発生した地震（M8.1）、7 月 13 日に大分県南部で発生した地震（M5.7）で観測された震度 5 強であった（図 1）。

M6.0 以上の地震は 18 回（2014 年は 15 回）発生した。過去 90 年間の発生回数の平均が 18.4 回、標準偏差が 12.8 であることから、ほぼ平均的な発生回数であったといえる（図 4）。2015 年中で最大規模の地震は、5 月 30 日に発生した小笠原諸島西方沖の地震で、M8.1 であった（図 2）。

日本で津波を観測した地震（海外で発生した地震を含む）は 4 回（2014 年は 3 回）であった。過去 89 年間の平均が 2.6 回、標準偏差が 2.0 であることから、ほぼ平均的な発生回数であったといえる（図 4）。

また、「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」の余震域での活動は、次第に少なくなっているものの、2015 年 12 月末現在、余震域の沿岸に近い領域を中心に、本震発生以前に比べ活発な活動が継続している。



2015 年の 1 年間に
最大震度 4 以上を
観測した地震回数
（最大震度別）

最大震度	回数
4	34
5 弱	5
5 強	5
6 弱	0
6 強	0
7	0
合計	44

図 3 平成 27 年（2015 年）に震度 1 以上を観測した日別回数（全国及び各地方別）

6 つの地方（北海道地方、東北地方、関東・中部地方（三重県を含む）、近畿・中国・四国地方、九州地方及び沖縄地方）に分割した。

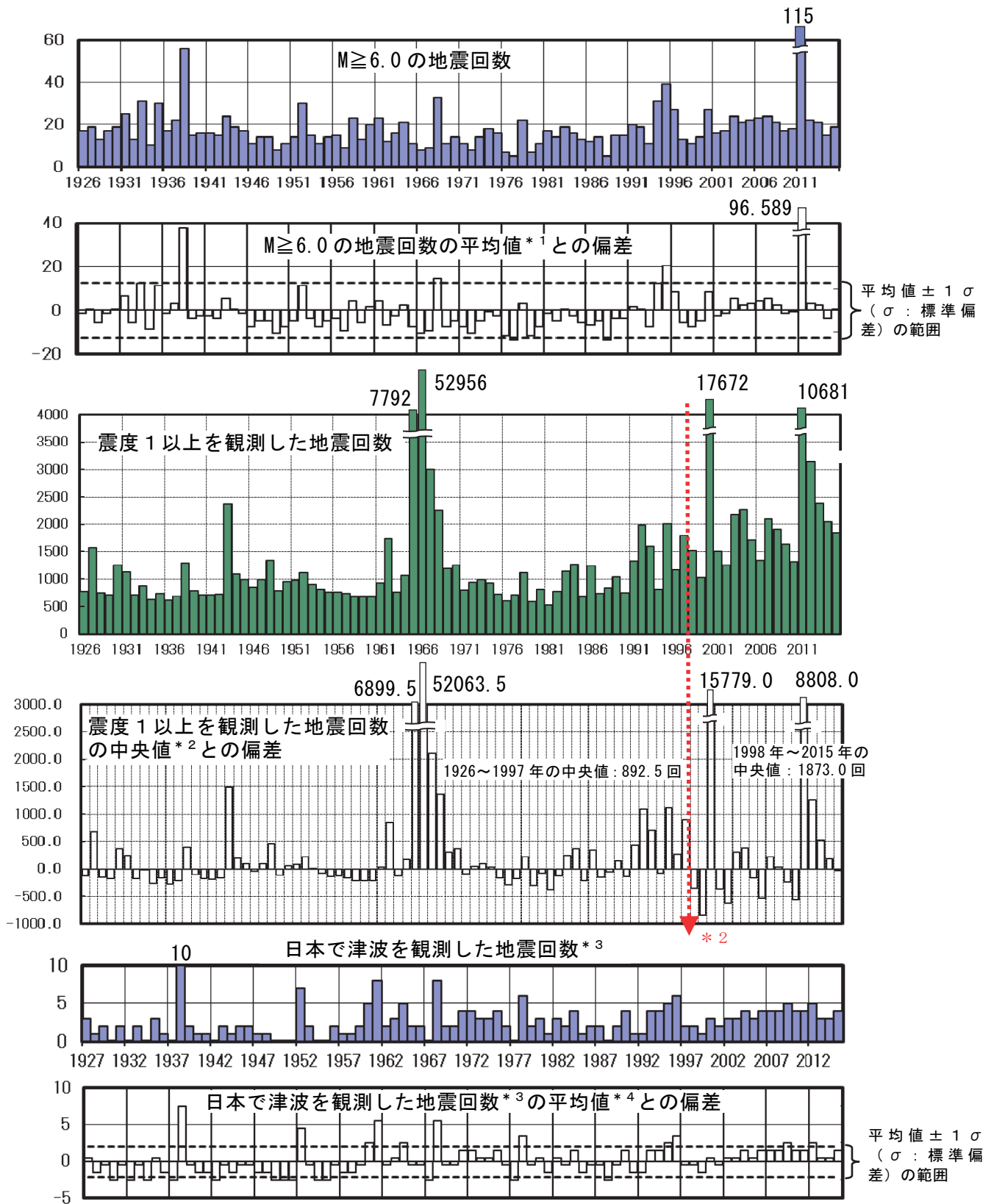


図 4 全国の $M \geq 6.0$ 、震度 1 以上および津波を観測した年別地震回数（1926－2015 年）

- * 1 $M \geq 6.0$ の過去 90 年間（1926～2015 年）の平均は 18.4 回／年、標準偏差は 12.8 であった。
- * 2 震度 1 以上を観測した地震の回数を比較するにあたっては、近年、震度観測点が増えたことを考慮する必要がある。ここでは、地方公共団体の震度計のデータを活用開始した時期（1997 年 11 月）を考慮し、1998 年を区切りとして、その前後で各々中央値を求めて比較した。なお、中央値からの偏差が大きい 1965～1967 年には松代群発地震、2000 年には新島・神津島の地震活動、2011 年には「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」が発生している。
- * 3 海外で発生した地震を含む。
- * 4 日本で津波を観測した地震の過去 89 年間（1927～2015 年）の平均は 2.6 回／年、標準偏差は 2.0 であった。